



ホームページ▶

ふるさと上越 🔍

ふるさと上越ネットワークたより

編集・発行 ふるさと上越ネットワーク事務局

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-1-2

TEL.03-5244-5138 FAX.03-3294-6106

●本庁担当

上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室

〒943-8601 新潟県上越市木田1-1-3

TEL.025-520-5625

◆ 雨の恵みと恐ろしさ

上越市高田の7月の降水量が観測史上最少のわずか1ミリという記録的少雨から、8月に入ってようやく雨が降ったことでダムの貯水量が少し回復し、また、田んぼにとっても恵みの雨となり安堵していたところですが、9月3日、未明から突如として激しい大雨に見舞われ、市内各所で9月の3時間降水量が観測史上最大となりました。

当日の朝8時前、私は出勤するために高田から上越大通りを市役所方面に向かっていましたが、城北中学校を越えた先の栄町東の交差点から西側で道路が一部冠水し、動けなくなっている車がありました。被害の全容が明らかになる中で、直江津を中心に住宅への浸水や道路の冠水が相次いで発生しており、直江津駅では構内が冠水したため、えちごトキメキ鉄道が終日運休となったほか、直江津駅前の複合ビル「うみらいず」1階で業務を行っている免許センターにおいても床上浸水被害で臨時閉庁となるなど、建物被害が379件(9月12日時点)にのぼりました。また、名立谷浜IC入口の交差点で土砂崩れが発生したことにより、国道8号の加賀交差点から、うみてらす名立入口までが通行止めとなり、高速道路も大雨の影響で上下線とも通行止めとなっていたために一時、名立までの通行手段が無くなるなど、道路や農業用施設などのその他被害についても276件(同時点)と多くの被害が発生しました。

また、ようやく収穫時期を迎えた田んぼでは、水没してしまったり、刈取り後の稲わらが、大量の雨水により収穫前の田んぼや用水路に溜まってしまうなどの被害が発生し、お米の収穫に大きな影響を及ぼす事態となりました。

被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げます。

折しも大雨の翌日4日、断水を回避するために7月15日から市民の皆様にご協力をお願いしていた節水要請を解除いたしました。今年の上越の夏は、雨の恵みと恐ろしさを身を持って体感した季節となりました。

ふるさと応援室長 大谷健一郎



【市道国府西本町線（アンダーパス）】
道路の低いところが冠水し、車が水没しています



【頸城区内の田んぼ】

◆ 渇水下でのお米作り

妙高市西条農園 池田肝太

昔から、越後の米作り百姓の間では「お日様の力が7～8割、人様の力は3～2割」と言われています。すなわち「稲作りには人がどんなに手入れや技術で努力しても、自然の影響が7～8割と大きく、人がどんなに努力しても自然の力にはどうにもならない」ということですが、今年ほど、自然の力の大きさを痛感した年はありませんでした。

一方Jネット会員の方はご存知と思いますが、新潟県の大きさ（長さ）です。富山県境から山形県境まで約300 kmあり、地域としても上、中、下越、それに佐渡の4地域に分かれてよばれています。

今年の春から夏にかけての天候はこの4地域とも、高温の暑い日がつづきましたが、違ったのは降水量で、能登半島～佐渡～下越地域に渡るラインに沿って大雨線状降水帯が度々発生し、何度も災害が発生するほどでした。時々降る雨もせいぜい長岡市、柏崎市までで、米山から西側の上越地域では8月末までまったく雨の降らない異常な日がつづきました。上越市では、水道水の制限も出された程の水不足となりました。

稲作りの水との関わりは、5月始めに耕耘済みの圃場に、用水から水を引き込み代掻きを行い、5月中旬までに田植えを行います。田植え後約1ヶ月間は圃場に水を入れ出し管理し、6月中旬から圃場の水を抜き2～3週間中干しを行い、その後用水から再び水を入れ、出穂の9月上旬まで水管理を行うことで、美味しいコシヒカリの収穫を迎えられます。

ところが今年の上越地域では6月～8月にかけて稲が水がほしい時期に殆ど雨が降らなかったことから、雪解け水とその後の降水にたよる、山間部の棚田では、雨水が涸れてしまい、多くの棚田で水がなくなってしまい、圃場面でひび割れや稲その物が枯れてしまうような、被害が多くでてしまいました。

用水路の整備された、頸城平野の下流部でも、雨不足から用水そのものの水量が減ったことから上流部での取水で用水の水量が減少し、圃場のひび割れや立ち枯れ被害が発生した箇所も出てしまいました。

このような厳しい水状況でしたが、お陰様で私の圃場では、水利の状況がよいことから、水不足の心配は無かったので助かりました。

